

提出していただいた意見とそれに対する市の考え

<ひまわりバス路線再編計画(案)>

No.	意見等の概要	件数	豊明市の考え・対応
1	<p>今、住んでいるところはひまわりバスが走っていません。今は 40 代のため問題ありませんが、坂も多く、老後が心配です。</p> <p>「チョイソコとよあけ」の試運転をしていますが、この地域でも何らかの形でコミュニティバスが運行するようになればと思います。</p>	1	<p>ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>豊明市の公共交通は、市内外を結ぶ広域路線として名鉄バスが、駅や市役所、藤田保健衛生大学病院(以下、「衛生大」という。)といった市内の各拠点と人口密集地を結ぶ拠点連絡路線として「ひまわりバス」が、それぞれ役割を担って運行しています。</p> <p>また、路線再編における基本方針では、人口密集地以外の地域や道幅が狭いなどの道路環境によってバス車両の走行が難しい地域には、地域が主体となって各地域の移動ニーズに応じた運行方式を検討する「地域路線」の導入を検討することとしています。</p> <p>予約型乗合交通である「チョイソコとよあけ」は、地域路線のひとつの形として、現在、仙人塚地区において無償による実証実験を行っております。</p> <p>名鉄バス、ひまわりバス、地域路線が相互に連携することで、お出かけしやすい環境を整備します。</p>

<p>2 豊明駅まで行くバスはあるが、朝一本しかなく、利用することは難しい。また、小所、泉地区に来る帰りのバスはないのでとても不便です。通勤、通学時間でも利用できるように本数を増やしてください。</p>	<p>2 ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>路線再編にあたり、ひまわりバスには「運行本数の拡大」「目的地や主要施設まで行きやすくする」ことが求められています。</p> <p>これらの要望に応える一番の手段はバスを増車することですが、過去に行ったアンケートでは、ひまわりバスを運行するための市の費用負担は「現状程度がよい」との回答が多かったため、路線再編後もバス3台により運行します。</p> <p>限られた台数で運行本数を増やすため、路線再編における基本方針のとおり、運行範囲を効率的にまとめ、運行頻度をあげることで運行本数を確保します。また、運行範囲をまとめるうえでは、一定の路線再編基準を設け、設置の見直しを検討することとしています。</p> <p>小所、泉地区は、路線の効率化及び路線再編基準に基づく見直しにより、ひまわりバス路線の対象地区とはなりません。地域が主体となって各地域の移動ニーズに応じた運行方式を検討する「地域路線」の導入を検討する地域としており、現在、導入に向け地域との話し合いを始めています。</p>
---	---

<p>3 最近、藤田保健衛生大学病院へ行く事が増え、ひまわりバスを利用しています。改めて案を見てがっかりしています。81歳と75歳の2人で、近くの停留所から藤田保健衛生大学病院まで直通で行けたのが、再編後にはなくなってしまいます。桜ヶ丘区民の利用が少なかったのでしょうか。桜ヶ丘区は、坂が多く、高齢化率も高いため、一人暮らしの方は、タクシーの割引の利用や、近くの家族に依頼してお出かけをするなど工夫をしています。</p> <p>私自身も、つい最近までは市役所やピアゴへ運動になるからと歩いていましたが、もうダメです。</p>	<p>1 ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>今回の路線再編により、前後駅での乗り継ぎは生じますが、現在の路線と同様に衛生大へ行くことができます。</p> <p>現在のひまわりバス1号及び2号は、桜ヶ丘区周辺のバス停から、乗り継ぎをすることなく衛生大や市役所、ピアゴ豊明店などへ行くことができますが、路線が長いことによって以下のようなデメリットもあります。</p> <p>(ア)1便あたりの運行所要時間が長くなるため運行本数が少なくなる。</p> <p>(イ)前後駅を中心に「8の字」を描くような路線となっているため、行き先がわかりづらい。</p> <p>(ウ)大幅な遅延が発生した場合、遅れを取り戻すことが難しい。</p> <p>衛生大への移動については、午前中の本数が「5便」と多く、通院時に利用しやすくなっていますが、午後からの前後駅方面へ向かう便が「2便」と少ないため、帰宅時に利用しづらいとのご意見を多くいただきます。また、衛生大に限らず、ひまわりバス全体を通して「運行本数の拡大」が求められています。</p> <p>この要望に応える一番の手段はバスを増車することですが、過去に行ったアンケートでは、ひまわりバスを運行するための市の費用負担は「現状程度がよい」との回答が多かったため、路線再編後もバス3台により運行します。</p> <p>限られた台数の中で対応するため、前後駅を中心に「中央循環コース」「南部循環コース」の2路線に分け、運行範囲を効率的にまとめることで、運行頻度を上げ、運行本数を確保します。</p> <p>また、人口密集地以外の地域や桜ヶ丘区のように道幅が狭いなどの道路環境によってバス車両の走行が難しい地域には、地域が主体となって各地域の移動ニーズに応じた運行方式を検討する「地域路線」の導入を検討することとしています。</p> <p>名鉄バス、ひまわりバス、地域路線が相互に連携することで、お出かけしやすい環境を整備します。</p>
--	--

<p>4</p> <p>1. 3路線のつながりを良くしてほしい。路線を変えて乗る場合、乗り換えなしで行けたら好都合です(市役所や藤田保健衛生大学病院へ行く回数が多いので、つながっているほうが良い)。</p> <p>2. 「チョイソコとよあけ」は早く導入してほしい。南部地区は不便です。</p> <p>3. 後期高齢者は体力的に大変なのでわかってほしい。外に出られなくなる。</p>		<p>1</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>1. 路線再編にあたり、ひまわりバスには「運行本数の拡大」が求められています。</p> <p>この要望に応える一番の手段はバスを増車することですが、過去に行ったアンケートでは、ひまわりバスを運行するための市の費用負担は「現状程度がよい」との回答が多かったため、路線再編後もバス3台により運行します。</p> <p>限られた台数の中で対応するため、前後駅を中心に「中央循環コース」「南部循環コース」の2路線に分け、運行範囲を効率的にまとめることで、運行頻度を上げ、運行本数を確保します。前後駅での乗り継ぎは生じますが、現在の路線と同様に衛生大へ行くことができます。</p> <p>また、前後駅で結節することで、ひまわりバスに限らず、名鉄電車、名鉄バス、タクシーといった多様な交通機関との乗継利便性を確保し、市内外を問わずお出かけしやすい環境を整備します。</p> <p>2. 人口密集地以外の地域や道幅が狭いなどの道路環境によってバス車両の走行が難しい地域には、地域が主体となって各地域の移動ニーズに応じた運行方式を検討する「地域路線」の導入を検討することとしています。</p> <p>予約型乗合交通である「チョイソコとよあけ」は、地域路線のひとつの形ですが、他の交通不便地域においても、「地域路線」の導入について検討していきます。</p> <p>3. 豊明市地域公共交通網形成計画では、公共交通が充実することは、子どもからお年寄りまで安心して住み続けられるために不可欠であるとしています。しかし、名鉄バスやひまわりバスのような車両は、その大きさや形状から、走ることができる範囲が限られてしまいます。</p> <p>そのため、新たな公共交通である「地域路線」を導入し、よりきめ細かく公共交通網を張り巡らせることによって、お出かけしやすく安心して住み続けられるまちをめざします。</p>
--	--	----------	--

<p>5 1. 高齢のため、一本で藤田保健衛生大学病院や文化会館等で行く事ができる従来の方法が良い。「将来考えます」の言葉はいらぬ。現実味のある事を言ってほしい。</p> <p>2. 緑コースの巡回方法はいらぬ(目的地がない)。たぶん外出減になると思う。</p>	<p>1 ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>1. 今回の路線再編により、前後駅での乗り継ぎは生じますが、現在の路線と同様に衛生大へ行くことができます。</p> <p>現在のひまわりバス1号及び2号は、桜ヶ丘区周辺のバス停から、乗り継ぎをすることなく衛生大や市役所、ピアゴ豊明店などへ行くことができますが、路線が長いことにより以下のようなデメリットもあります。</p> <p>(ア)1便あたりの運行所要時間が長くなるため運行本数が少なくなる。</p> <p>(イ)前後駅を中心に「8の字」を描くような路線となっているため、行き先がわかりづらい。</p> <p>(ウ)大幅な遅延が発生した場合、遅れを取り戻すことが難しい。</p> <p>衛生大への移動については、午前中の本数が「5便」と多く、通院時に利用しやすくなっていますが、午後からの前後駅方面へ向かう便が「2便」と少ないため、帰宅時に利用しづらいとのご意見を多くいただきます。また、衛生大に限らず、ひまわりバス全体を通して「運行本数の拡大」が求められています。</p> <p>この要望に応える一番の手段はバスを増車することですが、過去に行ったアンケートでは、ひまわりバスを運行するための市の費用負担は「現状程度がよい」との回答が多かったため、路線再編後もバス3台により運行します。</p> <p>限られた台数の中で対応するため、前後駅を中心に「中央循環コース」「南部循環コース」の2路線に分け、運行範囲を効率的にまとめることで、運行頻度を上げ、運行本数を確保します。</p> <p>2. 前後駅を含めた南部循環コースに該当する地域では、これまでに実施したアンケート結果や寄せられるご意見として、次のことが挙げられます。</p> <p>(ア)栄・館小学校区において「アオキスーパー前後店」がバスで行きたい施設として最も多い。</p>
---	---

	<p>3. 「チョイソコ」とよあけの導入台数は。南部地区の地形は平地ではない。</p>	<p>(イ)乗降調査では、ひまわりバス利用者の大半が前後駅で下車している。</p> <p>(ウ)前後駅からひまわりバスを利用される方にとって行き先(方面)が分かりづらく、乗り間違えてしやすいといった意見が多い。</p> <p>以上のことから、前後駅を起終点とする「南部循環コース」を設定するとともに、アオキスーパー前後店の最寄りバス停として「石塚公園」バス停を設置し、分かりやすく目的地へお出かけしやすい路線としています。</p> <p>3. 予約型乗合交通である「チョイソコとよあけ」は、地域路線のひとつの形として、現在、仙人塚地区において無償による実証実験を行っております。今後は、実証実験の検証を実施し、導入台数や対象エリアなどを決定していきます。</p> <p>他の交通不便地域においても、地域が主体となって各地域の移動ニーズに応じた運行方式を検討する「地域路線」の導入を検討していきます。</p>
--	---	---